

令和7年度入試についての情報

令和7年度の大学入試共通テストについての情報が、大学入試センターおよび文部科学省から発表されました。令和7年度入試とは、今の2年生（および、再チャレンジの3年生）が受験するものです。新課程入試初年度であり、旧課程履修者に対する移行措置がとられることから、非常に煩雑になっています。ですが、「教育課程が変わった」ことによるものがほとんどなので、あまり難しく考えなくて大丈夫です。河合塾の担当の方が上手に整理してくれましたので、それを元に紹介します。

■本試験の入試日

2025年1月18日・19日 ※時間割は2024年6月に正式決定します。

■得点調整

以下の①～⑥の科目間が対象

- ①地理歴史の「地理総合、地理探究」「歴史総合、日本史探究」「歴史総合、世界史探究」「旧世界史B」「旧日本史B」「旧地理B」
- ②公民の「公共、倫理」「公共、政治・経済」「旧現代社会」「旧倫理」「旧政治・経済」「旧倫理、旧政治・経済」
- ③数学①の「数学Ⅰ、数学A」「旧数学Ⅰ、数学A」
- ④数学②の「数学Ⅱ、数学B、数学C」「旧数学Ⅱ、数学B」
- ⑤理科の「物理」「化学」「生物」「地学」
- ⑥情報の「情報Ⅰ」「旧情報」

地理歴史、公民、数学、情報の各教科は新旧両科目が得点調整の対象です。

受験者数1万人未満の科目は対象となりませんが、「情報」は1万人未満でも得点調整の対象です。

実施条件は、次の2つのいずれかに該当した場合です。

- ・20点以上の平均点差が生じた場合
- ・15点以上の平均点差が生じ、かつ段階表示の区分点差が20点以上生じた場合（スタナイン導入、9段階に成績を輪切りにしての段階表示のこのようです）

■旧課程履修者（現3年生）対応

- ・地歴公民は出願時に新旧いずれを選択するのか申請。問題冊子が新課程、旧課程で分かれており、どちらかを受け取る形式です。
- ・数学、情報は新旧がそれぞれ1冊になっており、試験当日に選択可能です。
- ・理科は旧課程科目は出題されませんが、旧課程履修者のみが選択可能な問題が出題される場合があります。

■解答用紙の様式の変更について・地歴公民、理科が両面になります。

地歴公民は1面が「地理総合／歴史総合／公共」以外の科目用、2面が「地理総合／歴史総合／公共」用です。

理科は1面が基礎を付さない科目用、2面が「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」用です。

- ・数学①②では以下の選択肢記号がなくなります。

数学①は「±」

数学②は「a, b, c, d」

大学入試センター 令和7年度入試

https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shiken_jouhou/r7/ →



○得点調整については、受験後の話なので、出願・受験時に気にすることはないですが、科目選択や、解答用紙については、現役生・浪人生共に気を付けなければなりませんね。

図書館の赤本コーナーが稼働しはじめました

改めて、進路室・図書室の赤本コーナーについて簡単に説明します。

本校では、生徒のみなさんが活用できるよう、大学入試の過去問題集（いわゆる赤本）を購入しています。

新校舎では、赤本の配置が以下のようになっています。

<進路資料室>

- ・過去2年分の赤本（本年度は22年版・23年版）
- ・東大・京大・名古屋等の赤本については、さらに古いものまで保存してあります。
- ・青本（駿台が出している過去問題集）については、旧帝大・一橋・東工大が揃っています。
ただし、2023年版のみ、青本はありません。

<図書館>

- ・最新（本年度は24年版）の赤本を入荷次第配架してきます。場所は右図参照。書庫の入り口の隣です。

これらの赤本・青本、については、1人1冊1週間借りることができます。

図書館の蔵書ではありませんので、カウンターでの貸出手続きはしていません。

進路資料室、図書館それぞれに貸出簿がありますので、記載内容をよく読み、必要事項を記入して借りてください。



図書館の赤本コーナー



貸出簿の位置

※これらの赤本については、残念ながら紛失しているものがあります。

校内の全ての方が困りますので、紛失はもちろん、書き込み等もしないようにしてください。

赤本の活用法

赤本（青本も含む）の活用法についてはいろいろなやり方があり、どれがベストとは言えません。入試ぎりぎりに力試してやるべきだ、という人もいれば、夏休みには一通りやっておいた方がいい、という人もいます。いずれにせよ、自分でしっかり方針を決めて、意味のある活用をしてください。

赤本についてわかっておいた方がいい点は2つ。

- ①赤本に載っている問題は、同じ大学では絶対に出題されることはない。
- ②とはいえ、各大学は、だいたい同じ出題形式、出題傾向をとりやすい（絶対ではない）。

まあ、当たり前といえば当たり前なのですが、特に②について、某大学で出題経験のある先生によると、「過去問は大学からのメッセージである」とのことです。つまり、こういった問題が解けるような学生を合格させたい、という気持ちで問題を作成しているのだそうです。ですので、やはり過去問を無視するわけにはいきません。

というわけで、赤本を開く一番の狙いは問題の出題形式に慣れることです。最近では各予備校のHPに昨年度の問題が掲載されていることもあります。赤本のコピーより、そちらの方がより本番に近い問題用紙を手に入れることができるので、赤本にこだわることはないです。ちなみに東進の大学入試問題過去問データベースはなかなか使いやすくていいと思います。

また、赤本には模範解答がついています。これは、あくまでも赤本の会社（教学社）で作成した解答ですので、各大学から発表された公式な正解ではないことには注意してください。特に論述問題や、途中の解答プロセスが重視されるような問題、あるいは別解があるような問題だと、他にもよい解答がある可能性があります。ですので、青本（別の会社）や、各予備校等の模範解答も参考にするのがよいでしょう。

先日、某私立大学の入試担当の人から聞いたのですが、今後しばらくは、新課程になったとしても、大学の先生たちは入試問題の傾向を大きく変えるつもりはなさそうだ、という話を聞きました。確実な話とは言えませんが、やはり大学ごとに入試問題の狙いは違っているはず。そういうことを踏まえて赤本・青本の活用をしてください。